

# 大塚地区 かわら版 第2号

## 大塚地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

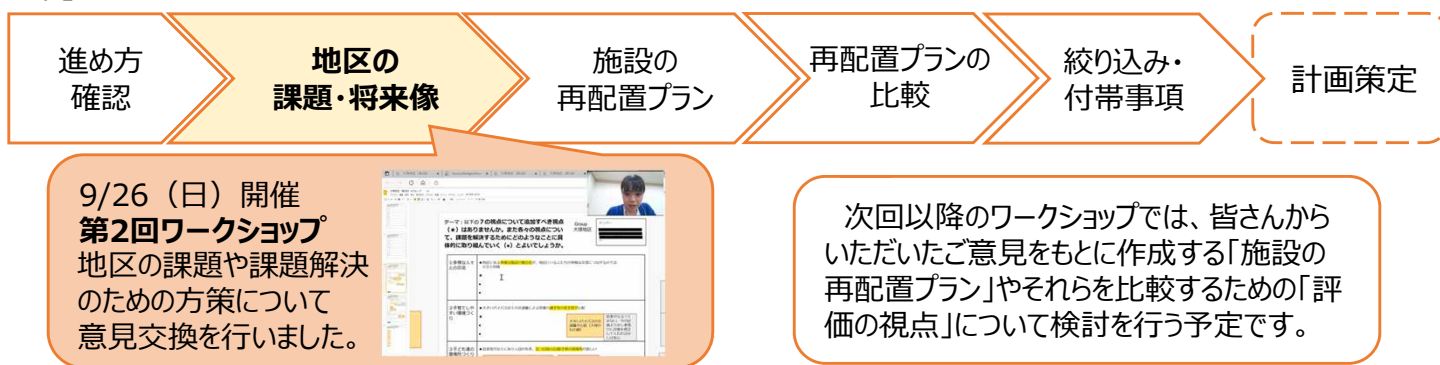
### 将来の公共施設の配置や使い方を地区の皆さまとともに考えています。

蒲郡市では、地区の皆さまが主な利用者となる公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来の配置や使い方を示す「地区個別計画」を策定するため、中学校区ごとに「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。9月26日（日）オンラインで開催した第2回ワークショップの内容をお伝えします。

ワークショップで話し合われている内容等について地区の皆さまのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップ参加者と共有し、検討を進めていきます。（裏面の「ご意見募集」をご覧ください。）

### 検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップをはじめ、地区の皆さまからいただく様々なご意見を参考にして、大塚地区の「地区個別計画」の検討を進めていきます。第2回ワークショップでは、下に掲載の7つの視点をもとに「大塚地区の課題」と「課題解決の方策」について話し合いました。



### 前回いただいたご意見を7つの視点にまとめ、各視点について検討しました。

第2回ワークショップでは、第1回ワークショップでのご意見を踏まえて整理した7つの視点をもとに話し合いを行いました。以下は、7つの視点と各視点のもとになった第1回ワークショップでのご意見の抜粋です。

#### ① 多様な人々との交流

- 施設を集合することで、多世代交流ができるとうよい。
- 異年齢の交流は子ども達にとってよい効果がある。
- 外国人が多い地区なので共生を考える必要がある。
- 子ども達に対し農家や地域の魅力を発信する。

#### ② 子育てしやすい環境づくり

- 低年齢児保育や延長保育ができるようにしてほしい。
- 児童クラブは1箇所にとまると便利だ。
- 保育園と小学校（児童クラブ）が一体化するとお迎えも安心で楽だ。

#### ③ 子ども達の居場所づくり

- 地域の様々な人材が子ども達の活動に力を添えられるとうよい。
- 放課後や長期休暇中の子ども達の居場所が欲しい。
- 公民館の活用など、自宅以外に過ごす場所が欲しい。

#### ④ 生涯現役でいられる地域づくり

- 農業の高齢化が深刻だが、高齢者も現役で活躍している。
- くるりんバスがもっと便利になるとよい。
- 高齢者にとっては公民館が地域の繋がりを生む拠点だ。

#### ⑤ 安全・安心

- 災害時を考慮した施設配置が必要だ。
- 交通事故や防犯の面で通学路の安全性が心配だ。
- 施設が老朽化している。

#### ⑥ 利便性の向上

- 施設の再編を考えるうえで駐車場は重要だ。
- 買い物、交通が不便である。
- 施設が東端に位置しており、配置のバランスが悪い。

#### ⑦ 効率的な施設配置

- 施設の複合化によって、効率化したほうが良い。
- 子どもの数が減っているため、問題ないのであれば小中一貫にしたり、保育園を統合してもよい。

いつまでも住み続けたい地区、  
住み続けられる地区でありたい、  
という趣旨のご意見をたくさんいただきました。



## 第2回ワークショップでいただいたご意見

第1回ワークショップでいただいたご意見をもとにまとめた7つの視点について、追加すべき視点はないか、それぞれの課題に対して具体的にどのような解決方法があるのか、話し合いを行いました。いただいたご意見について抜粋してご紹介します。

### ① 多様な人々との交流

- ・農家が高齢化して土地が余っている。空いた土地を利用してみんなで農作業をすることで、世代間交流や地域の活性化に繋がるのではないかな。
- ・大塚小学校では日常的に声かけ運動などを行っており、こういった運動が人の輪を増やし、多様な交流や安全安心につながる。多様な交流が可能となるような施設の再編やプログラムの構築が必要だ。
- ・地区にある多様な施設の複合化により、住民の多様な交流につながるのではないかな。
- ・高校生、大学生世代の居場所がない。公民館などに彼らが来たくするような空間やイベントがあり、他の世代と顔を合わせることが重要だと思う。
- ・公民館は子どもや高齢者の利用が多いイメージがあるが、若者向けのイベントの実施や情報発信を行い、若い世代がもっと交流できる場所になるとよい。
- ・公民館では多様な活動を行っているが、外国籍の参加者はいない。外国の方も読めるようなチラシにしたり、目で見えるような情報発信をすれば、情報が伝わるのではないかな。

### ② 子育てしやすい環境づくり

- ・低年齢児保育や延長保育は必要だ。大塚保育園は大塚西保育園と異なり、18時過ぎまで預けることができるので人気があるのだと思う。
- ・保育園のお迎えの時間には駐車場がいっぱいになる。大塚西保育園周辺は踏切も狭いので気になる。
- ・保育園は統合するのではなく、分散していた方がよい。小学校入学時に2保育園が合わさるというワクワク感もある。
- ・縦割り保育では年少から年長まで一緒に育つ利点もあり、様々な選択肢があってもよいのではないかな。
- ・小中一貫校の話が出ていたが、保育園や児童館も一体的に整備する必要がある。児童クラブ機能もあるとお迎えが楽でよい。

### ③ 子ども達の居場所づくり

- ・大塚地区には公園が少なく、子ども達の遊び場や居場所も少ないと思う。車を利用しなくても行ける距離に低年齢児も利用できるような遊び場が欲しい。
- ・屋外で日陰のある遊び場が欲しい。子ども達だけで遊びに行かせるには人の目や交通の安全も必要だ。また、雨天時にも利用できるような屋根もついているとよい。
- ・町内のお祭りや神楽、PTA行事が減ってきている。子どもたちの交流を促す機会を提供していきたい。
- ・児童館は遊びの場なので、静かに過ごせる場所も提供してほしい。
- ・コロナ禍前は公民館のロビーが子ども達のたまり場になっていた。学校と家以外の居場所として、公民館を安心して集まれる場所、静かに落ち着ける場所として提供したい。
- ・学校を放課後に開放してもらえないだろうか。下校してから遊びに行くよりも、そのまま校内で活動する方が安全・安心だ。児童クラブも校内にあるとよい。

### ④ 生涯現役でいられる地域づくり

- ・生涯現役のためには自分の趣味を持つことが大事だ。そのために公民館は重要な場である。
- ・農業者はお年寄りでも元気だが、サラリーマンが定年後に身体を動かせる居場所が必要だと思う。農業の基盤整備をしっかりとし、退職後のサラリーマンで農業従事者の不足を補うなどしてはどうだろうか。

### ⑤ 安全・安心

- ・下校時間が遅いと街灯の少ない道が暗くて心配だ。
- ・道が狭く、安全のために遠回りすることが多い。徒歩でも自転車でも安全に行き来できる街になるといい。
- ・西大塚からの通学は小学校低学年には遠く、ガードレールも少ないため危険だ。低学年だけでも通学バスを走らせるなど考慮してもよいのではないかな。
- ・大塚金野線整備後の児童の通学や園児のお散歩が心配だ。もっと安全が確保できるルートはなかったのだろうか。
- ・避難所となる学校は建物が古く、地震の際の安全性が心配だ。津波や高潮の心配もあるので、山側への移転も検討してほしい。
- ・保育園が老朽化しているので、小学校よりも先に解決したい。

### ⑥ 利便性の向上

- ・公民館にオンライン会議ができるスペースや学生向けの学習スペースがあると、市の中心部まで出向く必要がなくなり、便利になる。
- ・新しく整備する公民館には地域の情報が手に入るようなお知らせコーナーが欲しい。
- ・公共施設を考えるうえでアクセスのしやすさは大事だ。そのためには、くりんバスの運行頻度やバス停の位置だけでなく、ネット予約の導入など新しいサービスも検討できるとよい。
- ・地域の魅力は感じているが、車がないと移動できない。くりんバスの充実など基礎インフラを向上させたい。児童の登校などにも利用できるのではないかな。

### ⑦ 効率的な施設配置

- ・西大塚地区の方は施設が遠く不便な面が多いのではないかな。小学校は地域の真ん中に整備するなど、大塚地区全体の中で利用しやすい場所に施設を整備できるとよい。
- ・保育園は老朽化しており、2園から1園にすることは理解できる。建替えの際は現在の場所ではなく、配置バランスを考え、新たな場所に建替えたほうがよい。

### その他

- ・子ども、高齢者、子育てお母さんと考えると「お父さん世代」の視点が抜けている。
- ・介護が必要な高齢者や障がい者、支える家族の視点が抜けている。バリアフリーを踏まえた施設ができるとよい。
- ・保育園から中学校まで同じメンバーのため、子どもの交友関係が限られてしまうし、いじめなどがあった場合、逃げ道がなくなってしまう。



# 小中学校規模適正化方針と公民館・保育園のグランドデザイン

施設の再配置を検討するにあたり、令和2年度に策定をした小中学校・公民館・保育園の今後の施設のあり方等に関する方針について施設担当部署より説明がありました。

## 小中学校規模適正化方針について

教育委員会では今後の社会状況を見据え、子ども達にとってより良い教育環境の実現のため、学校のあり方について考えています。その取り組みの一つとして、学校教育環境の維持向上のため、本市における小中学校の規模に関する考え方と課題を整理し、課題解決に向けた基本的な考え方・対応方針を明らかにした「蒲郡市小中学校規模適正化方針」を策定しました。

### ○ 市内の保護者・教職員へのアンケート結果

<小学校保護者の回答>

学校規模に関する設問では、72.8%の方が「適正である」としているものの、小規模(11学級以下)区分の回答集計では「もっと多い方が良い」が65.0%となっており、全体と比べ適正であると感じている方が少ない状況です。

小規模校対策は必要かの設問では、「必要」「どちらかと言えば必要」あわせて64.4%となっています。また、規模別集計では小規模区分の方が「必要」「どちらかと言えば必要」の回答が4%程高くなっています。

<中学校保護者の回答>

学校規模に関する設問では、74.4%の方が「適正である」としているものの、小規模区分Ⅰ(8学級以下)の回答集計では「もっと多い方が良い」が63.5%となっており、小学校と同様、全体と比べ適正であると感じている方が少ない状況です。

小規模校対策は必要かの設問では、「必要」「どちらかと言えば必要」あわせて70.9%となっています。小学校より中学校の保護者の方が小規模校対策の必要性を感じていることが分かります。

### ○ 規模適正化の対応方法と進め方

大塚地区においては、**大塚小学校、大塚中学校**ともに適正化を検討する学校に該当しています。

大塚小学校・大塚中学校の適正化に向けた対応策

「**小中一貫教育の導入**」を行い、柔軟かつ大胆な教育環境を構築

将来、小学校は全学年1学級(205人・計6学級)、中学校は1学級の規模が発生する規模(108人・計5学級)となることが見込まれています。三谷地区と合流する手法を用いれば規模自体は適正化が見込まれるものの、相楽町周辺において小学校の通学距離の基準を超えてしまう等の課題が発生します。

そのため、小中一貫教育を導入し、異なる学年の繋がりで多様性を育むといった新たな教育体制を構築し、「地域に根ざした学校」づくりを推進していきます。なお、小中一貫教育の手法については「施設一体型の小中一貫型小学校・中学校」「義務教育学校」の2種が考えられますが、今後教育的効果の研究・検討を進めたうえで選択を行います。

## 公民館グランドデザインについて

少子高齢化や地域と学校の協働体制の構築といった社会の変化に対応するため、これからの蒲郡市の公民館の将来を見据えた施設のあり方、考え方を検討し、「蒲郡市公民館のあり方について(公民館グランドデザイン)」として策定しました。

### ○ 公民館の課題

利用状況やアンケート等の分析から公民館について2つの課題が浮上しました。

#### ① 魅力的な講座の実施、多様な学習機会の提供が必要

- ・各地区の公民館での実施講座の内容や回数を平準化し、どの地域でも同じように学べる体制づくり
- ・新しい利用者層の取り込み(男性、若い人)
- ・公民館活動、生涯学習講座の積極的な周知(潜在的利用者の発掘) など

#### ② 交流を生み出し、地域と人がつながる機能が重要

- ・自然に人が集まる、気軽に利用できる場所になる
- ・防災機能、子育て支援機能、高齢者の居場所など、地域・人をつなぐ活動の拠点となる事業の実施

### ○ 蒲郡市の適正な学校規模・学校配置

国の基準やアンケート結果、今後の児童生徒数・学校規模の推移等から、本市における学校の標準規模・標準配置を設定しました。

#### 【標準規模】

- 小学校…12～18学級(1学年:2～3学級)
- 中学校…9～18学級(1学年:3～6学級)

#### 【通学距離】

- 小学校…距離:概ね4km以内 時間:1時間以内
- 中学校…距離:概ね6km以内 時間:1時間以内

上記の標準規模を下回る学校のうち、2040年までに小規模校(小学校6学級以下、中学校5学級以下)となる見込みの学校については適正化にむけた検討を行います。

### ○ 小規模校の規模適正化の手法

小規模校に関する諸課題解決の手法として、次のような選択肢が想定されます。ただし、学校規模のクリアを課題の解決策として限定することなく、個々の学校にとって最適な手法を取り入れることが重要です。

① 学校の統合

② 小中一貫教育の導入

③ 通学区域の見直し

④ その他の手法

## 公民館グランドデザインについて（続き）

### ○ 目指すべき公民館

前述の課題を解決するため、公民館の目指すべき姿として、以下の2つを設定し、それぞれに即した施設配置を行うことで、各機能を十分発揮させることとしました。

**中央公民館：**主として社会教育機能（学習機能）を果たす  
全市民向けに多様な学習機会を提供し、どの地区でも同じように学べるよう地区公民館への支援を行います。

**地区公民館：**主として地域交流拠点機能  
（地域と人とのつながり）を果たす  
地域に寄り添う身近な施設として、これまで以上に地域住民同士の交流に力を注ぎます。

大塚公民館など、現在皆さまにご利用いただいている公民館は、「地区公民館」として地域に開かれた気軽に立ち寄れる場所を目指します。また、建替えの際には公民館と学校が連携しやすい体制を整備するため、可能な限り小学校との複合化を検討します。

### ○ 各地区の公民館配置に関する考え方

地区内の人口見込みや利用者の生活圏などを考慮し、地区公民館の対象区域と数について次のように設定しました。

#### 大塚地区

人口規模が小さいが、大塚駅、大塚公民館周辺を中心にして地域の生活圏がまとまっており、近隣の公民館への距離も離れているため、この地区に配置する公民館は1館が相当とします。

## 保育園グランドデザインについて

低年齢児保育や延長保育などの多様なニーズへ対応し、子ども達にとって安全安心な保育環境を継続的に確保するため、本市の今後の保育園のあり方を「蒲郡市公立保育園のあり方について（保育園グランドデザイン）」として策定しました。

### ○ 公立保育園の課題

入所者数の推移やアンケート、立地状況等から公立保育園に関する6つの課題を設定しました。

#### ① 保育サービスの不均衡

地域によって、提供サービスに不均衡が生じている

#### ② 安全対策

津波など災害リスクがある保育園は移転検討が必要

#### ③ 低年齢児保育ニーズの増加

ニーズの増加に対応するため、受け皿確保が急務

#### ④ 保育園の施設面の対応

老朽化への対応や0～1歳児受入のための設備整備

#### ⑤ 保育ニーズの多様化

公立園・民間園など多様な選択肢を用意する必要

#### ⑥ 保育士の確保

低年齢児ニーズの増加に伴う保育士の確保が必要

### ○ 保育園配置の考え方

今後のあり方を検討するにあたり、以下の要素を考慮し、保育園の配置案を検討していきます。

- ・各地区、各保育園で統一的なサービス（低年齢児保育・延長保育）を提供できるよう適正配置について検討する
- ・基準とする規模は、一人一人きめ細やかな保育を実現しつつ、健全な成長の観点から集団保育ができる規模（概ね80～130人程度）とする
- ・地区内に複数園がある場合は、地区内で公立・民間が選択できることを基本とする など

大塚中学区については以下のとおり今後のあり方を設定しました。  
大塚保育園・大塚西保育園の建替えのタイミングで2園を統合

- ・両園とも老朽化が進んでおり、建替えの必要があります
- ・2040年時点での地区内入所予想は110人です
- ・保育園の統合により、地区内で不足している低年齢児保育の充実につながります

## ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を参考にして「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **大塚地区のまちづくりや公共施設について**

下記のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、連絡先の記載をお願いします。

ご意見を  
お待ちしております!!



## 次回ワークショップのお知らせ

日時：11月28日（日）  
午後1時30分～午後4時30分  
内容：施設の再配置プラン案について

大塚中学校にて傍聴ができます。ご希望の方は、右のお問い合わせ先までご連絡ください。  
（新型コロナウイルス感染症の状況により傍聴を中止する場合がありますのでご了承ください。）

## 問い合わせ先

蒲郡市総務部公共施設マネジメント課  
〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号  
E-mail k-mane@city.gamagori.lg.jp  
TEL 0533-66-1214 / FAX 0533-66-1183

詳しくはHPをご覧ください。

（右のQRコード、  
または市HP 記事ID「0205697」で検索）

